

女性のつながりサポート事業【相模原市】

地域の実情と課題

- 減少傾向にあった自殺者数が、女性も含め、R2年度(コロナ禍)において増加に転じている。
- 女性の非正規雇用労働者の割合が全国及び神奈川県よりも高いため、コロナ禍に起因した経済的影響を受けている女性が多くいる可能性がある。
- コロナ禍前と比較し、女性相談件数の増加率が鈍化していることから、相談につながらず孤立化している女性が潜在化している可能性がある。
- 市民意識調査の結果、「DVを受けたときに相談しなかった(できなかった)」女性が多いことから、支援を必要とする女性が潜在化している可能性がある。

事業の特徴

- (1)生理用品等の配布及び支援窓口へのつなぎ
市内25か所等にて生理用品や支援窓口案内一覧の配布を行うとともに、配布時等に必要としている支援内容の聴取を行い、対象者を必要な支援につなぐ。
- (2)「さがみはら女性のためのなんでも相談会」の開催
相談内容を限定せず、様々な相談が可能な相談会を各区で開催し、弁護士等の専門職とともに女性の相談員が相談を受け、必要な支援につなぐ。
- (3)人材育成研修の実施
本事業にて支援を行い、事業終了後も支援を行う者に対し、研修を実施する。
- (4)報告・検討会議の開催及び報告書の作成
(1)や(2)にて把握した相談内容等を分析し、今後の支援方を検討する。

事業の効果

- (1)生理用品等の配布などを契機とした随時相談により、必要な支援へのつながりができた。また、子ども食堂や市内大学等にて生理用品と支援窓口案内一覧を配布することにより、様々な年代の方に支援窓口の周知ができた。
- (2)「さがみはら女性のためのなんでも相談会」の開催により、必要な支援へのつながりができた。相談会参加者の満足度は99%と非常に高いものであった。
- (3)人材育成研修における参加者有益度は91%と非常に高く、本事業を実施する上でも、本事業終了後に女性支援を実施する上でも、非常に有用な研修であった。
- (4)報告・検討会議を開催し、相談内容等の分析及び課題の整理を行い、今後の支援方策の見通しを立てた。

目的・目標

- 目的
長引くコロナ禍の影響により、寄り添った支援が必要にも関わらず、支援が届いていない女性等を、必要な支援へつなぐことを目的とする。
- 目標
・臨時相談会における参加者の満足度【目標:65% → 結果:99%】
・人材育成研修における参加者有益度【目標:85% → 結果:91%】
・臨時相談会の開催回数【目標:8回 → 結果:8回】

連携団体

- 委託先:社会福祉法人相模原市社会福祉協議会(以下「市社協」という。)
- 生理用品等の配布場所:子ども食堂、市内大学など
- 食料品・日用品の寄付、事業周知協力:さがみはらSDGsパートナーなど
(ウォータースタンド(株)相模原営業所、オギノパン、介護老人保健施設相模大野、(株)ホンダカーズ神奈川西、(株)マーク電子、共同募金会、黒河内病院、ケアラーズカフェ モンステラ、更生病院、相模原地方自治研究センター、NPO法人スマイルサポート、大協技研工業(株)、通所介護事業所ユースフルデイりあくと、東京ガス(株)神奈川西支店、東洋羽毛工業(株)、トワベーカーリー、フォト奥相模、(有)たけみや、SolveLine)
- 情報共有:神奈川県、県内市町村、神奈川労働局、(一社)神奈川県経営者協会

今後の課題

- 効果的な情報発信方法の検討
相談者等へのアンケート結果を踏まえ、「ネットで検索しやすい情報発信ページの作成」や、「人が日常的に自然と目にする場所における情報発信方法」など効果的な情報発信方法の検討が必要である。
- 20代女性へのアプローチ方法の検討
相談会参加者の年齢層について、30代は一定数(全体の約15%)の参加があったが、20代は非常に少数(全体の約1%)となっており、また、既存の女性相談の中でも、20代女性の割合は低くなっている。このため、20代女性が相談につながりやすい方策の検討が必要である。

事業の概要

生理用品等の配布及び支援窓口へのつながり

市社協事務局を主な拠点として、生理用品等の配布を行うとともに、困りごとお伺いアンケート(紙媒体・WEBフォーム)等により対象者が必要としている支援内容の聴取を行い、必要に応じて関係機関・団体等と連携して対象者を必要な支援につなぐ。

●配布期間: 令和3年11月1日(月)から令和4年2月28日(月)まで

●配布内容:

- ①生理用品(ふつうの日用及び夜用)
- ②困りごとお伺いアンケート(紙媒体及びWEBフォーム)
- ③支援窓口案内一覧(パンフレット)
- ④「さがみはら女性のためのなんでも相談会」チラシ

●配布場所:

- ①市社協事務局24か所
- ②市立男女共同参画推進センター
- ③食材配布事業会場
- ④子ども食堂
- ⑤市内大学
- ⑥生活困窮者等支援団体の活動場所

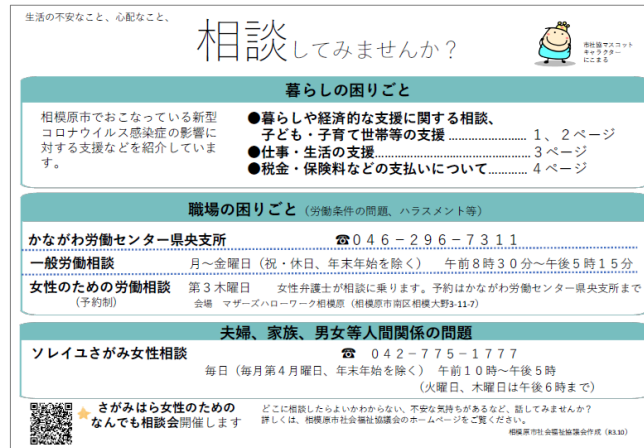
●配布時に併せて実施したこと:

- ①困りごとお伺いアンケート(紙媒体又はWEBフォーム)を用いた対象者が必要としている支援内容の聴取
- ②必要な支援へのつながり(支援に関する情報提供を含む。)
- ③対象者が希望する場合は、市社協コミュニティソーシャルワーカーからのアウトリーチ支援(主に電話)の実施

(生理用品希望者意思表示カード)



(支援窓口案内一覧(パンフレット)(表紙))



人材育成研修の実施

本事業での支援実施において必要となる知識等に関する研修を実施した。

- 開催日時: 令和3年10月15日(金) 午後2時~3時45分(オンライン開催)
- 内容: 講義及び演習「女性を取り巻く現状と女性相談の基本姿勢について」
- 講師: 特定非営利活動法人かながわ女のスペースみずら 理事 小山内 園子 氏
- 対象者: 本事業開始前から相談業務に従事し、本事業終了後も継続して相談業務を行う者
- 受講者: 79名(地域福祉推進員、地域福祉支援員、市社協コミュニティソーシャルワーカー等)

報告・検討会議の開催及び報告書の作成

生理用品配布時や相談会において把握した相談内容等を分析し、今後の支援方策を検討するための会議を開催し、報告書を作成した。

- 開催日時: 令和4年3月29日(火) 午前9時~11時(オンライン開催)
- 参加者:
 - ①相模原市(市民局長、人権・男女共同参画課、地域包括ケア推進課) 5名
 - ②学識経験者(相模女子大学 准教授) 1名
 - ③相模原市社会福祉協議会(常務理事、事務局長 等) 8名

「さがみはら女性のためのなんでも相談会」の開催

相談内容を限定せず、様々な相談が可能な相談会を各区で開催するとともに、必要に応じて関係機関・団体等と連携し、必要な支援につないだ。

●開催日時・場所

日時・曜日	会場	相談者数
R3.11.17(水)午後4時～8時	【緑 区】JR橋本駅前ペDESTリアンデッキ、橋本公民館	16人
R3.11.20(土)午後1時～5時	【南 区】小田急相模大野駅前ペDESTリアンデッキ、ユニコムプラザさがみはら、南区地域福祉交流ラウンジ	12人
R3.11.26(金)午後4時～8時	【中央区】JR相模原駅前ペDESTリアンデッキ、相模原市民ギャラリー	4人
R3.12.3(金)正午～午後4時	【緑 区】相模原市津久井総合事務所	4人
R3.12.18(土)午後1時～5時	【中央区】JR淵野辺駅北口ペDESTリアンデッキ、大野北公民館	10人
R3.12.27(月)午後4時～8時	【南 区】小田急相模大野駅前ペDESTリアンデッキ、ユニコムプラザさがみはら、南区地域福祉交流ラウンジ	13人
R4.1.29(土)午後1時～5時	【中央区】光が丘公民館	15人
R4.2.8(火)午後1時～5時	【南 区】小田急相模原駅前ペDESTリアンデッキ、おださがプラザ	15人

●相談体制

相談内容に応じて、①及び②～⑤のいずれかが2人1組となり、対応した。

- ①市社協コミュニティソーシャルワーカー
- ②弁護士
- ③市生活支援課(生活保護担当課)の職員
- ④市就職支援センターの職員
- ⑤ファイナンシャルプランナー

●相談のほかに実施したこと

- ・相談会当日、相談会場の最寄りの駅頭にテントを張り、日用品等の配布を行うとともに、ティッシュ配布による相談会周知を実施した。
- ・民間企業・団体から寄付をいただいた、食料品や日用品を相談会場にて配布した。

●当日の様子

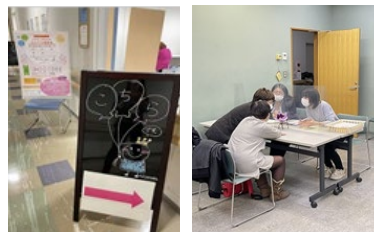
①外のテントでPR



②受付(相談票記入)



③相談ブース



④食料品・日用品のお渡し、アンケート記入



(相談会チラシ)